

# インターネット銀行の動向

大和田 智美 ● 株式会社ストック・リサーチ 取締役

## ネット専門銀行の口座数・預金残高は順調に増加 メガバンクの携帯アプリケーション取引サービスに注目

### ■ ネット専門銀行の預金残高は大幅増

ネット専門銀行3行の2007年3月末の口座数は、前年度より84万口座増の410万口座、預金残高は3500億円増の1兆5400億円となった。預金残高の伸び率は前年度の17.2%を大幅に上回る29.3%となった。2006年7月、2007年2月の金利の引き上げが預金増につながったものと見られる。

ジャパンネットは預金残高は増加したものの、3行中唯一伸び率が前年度を下回った。ジャパンネットは資産運用よりも決済主体の銀行であるため、他の2行ほどは預金に結びつかなかったものと思われる。預金のおおよその内訳を見ても、ソニーは普通預金35%、定期が45%、外貨が20%、またイーバンクは普通預金が3割で定期が7割と普通預金の割合が低いが、ジャパンネットは普通預金が8割近くを占める。このことから考えても、運用のためにまとまった資金を預け入れる顧客はソニーやイーバンクよりも少ないと推測できる。

### ■ ネット専門・都市銀行の金利差に変化

2006年から2007年にかけて都市銀行などの店舗型銀行、ネット専門銀行ともに金利が引き上げられた。これまでは、普通預金金利を例にとると都市銀行が0.001%、ネット専門が0.05~0.06%と、50~60倍もの差があった。しかし、引き上げ後は都市銀行が0.2%、ネット専門は0.3%（イーバンクは0.35%）と差は一気に縮小した。定期預金もそれまでの4倍程度から2倍弱の差へと縮まっている。ネット専門は金利の高さが特徴であったが、今後は金利による差別化はしにくくなりそうだ。

### ■ イーバンクが商品を拡充

2006年12月、イーバンクが外貨預金の取り扱いを開始した。一昨年は投資信託、今度は外貨預金と着々と商品を拡充している。これまでは、ネット専門銀行のうちソニーは資産運用型、イーバンクとジャパンネットが決済型と分けることができたが、イーバンクも資産運用型にシフトしつつあると言える。

外貨預金といえば取引レートや為替手数料で独自のサービスを展開するソニーに強みがあったが、イーバンクのサー

ビスも24時間リアルタイムの取引が可能で為替手数料は10銭とソニーに勝るとも劣らない内容だ。その他、投資信託の本数もソニーを上回る201本となり、定期預金にも通常の定期と特約付のバリエーションがあるなど商品は大幅に充実してきた。

### ■ 携帯電話のサービスに注目

都市銀行、ネット専門銀行ともほとんどの銀行が携帯電話に対応していたが、2005年度の時点ではソニーが未対応であった。しかし、2006年6月にソニーが携帯取引サービスを開始、12月には定期預金の申し込みや変更、解約なども可能になった。

メガバンクが徐々に対応を進めているのが携帯アプリケーションによる取引サービスである。銀行のアプリケーションサービスとは、ダウンロードした取引ソフト上で振込や残高照会などを行うもので、携帯サイトよりも見やすく、操作性がよいのが特徴だ。

これまでは、三菱東京UFJ銀行（旧東京三菱銀行のモバイルバンキング）のみアプリケーションを使ったサービスを提供していた。振込や入出金履歴の閲覧ができるのはもちろん、電子マネーのチャージができることや見やすい通帳画面などが特徴で、iモードのiアプリ（NTTドコモ）、EZWebのEZアプリ（au）、Yahoo!ケータイのSアプリ（ソフトバンクモバイル）すべてに対応している。

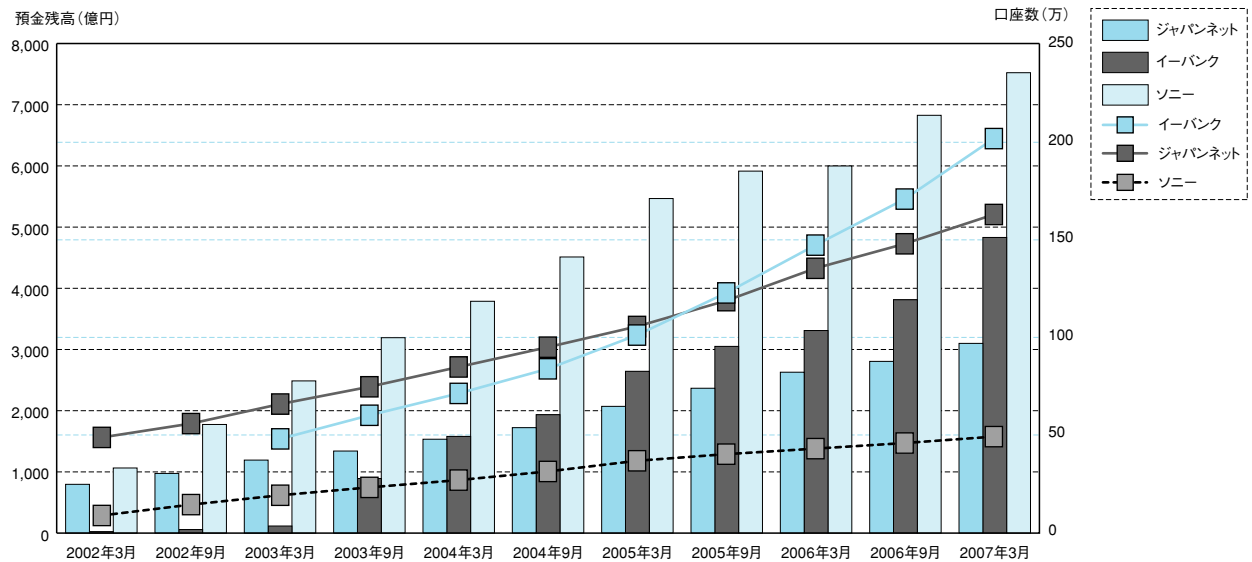
みずほ銀行、三井住友銀行は、2007年5月よりiアプリによるサービスを開始した。このiアプリは銀行個別のアプリケーションではなく、NTTドコモが開発した「iアプリバンキング」というプラットフォームに、みずほと三井住友が対応する形だ。

ただし、iアプリバンキングが利用できる機種は、メガiアプリ対応のもの（904i、903i、703iなど）に限定される。

この他、注目されるのが、KDDIと三菱東京UFJ銀行が共同で設立するモバイルネット銀行である。携帯電話上でフルラインナップの金融機能を提供するという一方で、株式や保険など幅広い商品を扱い、アドレス帳から相手を選んで振り込む機能など、ユニークなサービスも盛り込む予定だ。

## 金利引き上げの影響でネット専門銀行3社の預金残高は大幅増

資料5-6-3 ネット専門銀行の口座数と預金残高



ネット専門銀行の2007年3月末の口座数はイーバンク銀行が前年度より37%増の202万口座、ジャパンネットが17%増の159万口座、ソニー銀行が14%増の49万口座。ただし、伸び率は3社とも前年度よりも減少した。預金残高は、ソニーが25%増の7523億円、イーバンクが46%増の4831億円、ジャパンネットが17%増の3079億円。ソニーとイーバンクは伸び率も前年度を大きく上回ったが、ジャパンネットの伸び率は減少した。

## 各社とも金利が大幅に上昇、ネット専門の商品も徐々に拡充

資料5-6-4 主なインターネット銀行のサービス (ネット専門銀行・都市銀行・その他)

銀行のタイプ	銀行名	セキュリティ対策/補償制度	携帯電話/ 携帯アプリケーション	取扱商品・機能				金利※1	
				定期預金	外貨預金	投資信託	公共料金引落し	普通預金 (1円以上)	定期預金 (1年、100万円)
都市銀行などのネット銀行	みずほ銀行	乱数表など/50万円・100万円まで補償	i E Y / アプリ(i)	○	○	○	○	0.2%	0.35% (イターネット支店初回0.38%)
	三井住友銀行	乱数表、ワンタイムパスワードなど	i E Y / アプリ(i)	○	○	○	○		0.35%
	三菱東京UFJ銀行 (旧: 東京三菱)	乱数表など	i E Y / アプリ(i E Y)	○	○	○	○		0.35% (イターネット支店0.37%)
	三菱東京UFJ銀行 (旧: UFJ)	乱数表など	i E Y	○	○	○	○		0.35%
	りそな銀行	取引用パスワード、ソフトウェアキーボード、スパイウェア対策ツールなど/300万円・1000万円まで補償	i E Y	○	○	○	○		0.35%
	新生銀行	乱数表 (予定)、セキュリティキーボードなど	×	○	○	○	○		0.11%
ネット専門銀行	イーバンク銀行	ワンタイム認証、セキュリティボードなど/300万円・1000万円まで補償	i E Y	○	○	○	×	0.35%	0.67%
	ジャパンネット銀行	乱数表、ワンタイムパスワードなど/300万円まで補償	i E Y	○	△FX	×	○	0.3%	0.6%
	ソニー銀行	パソコンの登録、ソフトウェアキーボードなど	i E Y	○	○	○	×	0.3%	0.657%

2006年から2007年は利上げに伴う預金金利の引き上げにより、特に都市銀行の普通預金金利が大幅に上昇した。それまで0.001%だったものが0.2%となった。ネット専門も金利を引き上げたものの、都市銀行との差は縮小した。品揃えでは都市銀行に劣るネット専門銀行も徐々に商品を拡充しつつある。イーバンクが一昨年の投信に引き続き、外貨預金の取り扱いを開始した。また、これまでネット専門で携帯電話に対応していなかったソニーも2006年6月よりサービスを開始し、3キャリアの利用が可能となった。

iはiモード、EはEZweb、YはYahoo!ケータイ



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)